

もり まな  
森林から学ぶ

ヒノキアスナロ緑の少年団

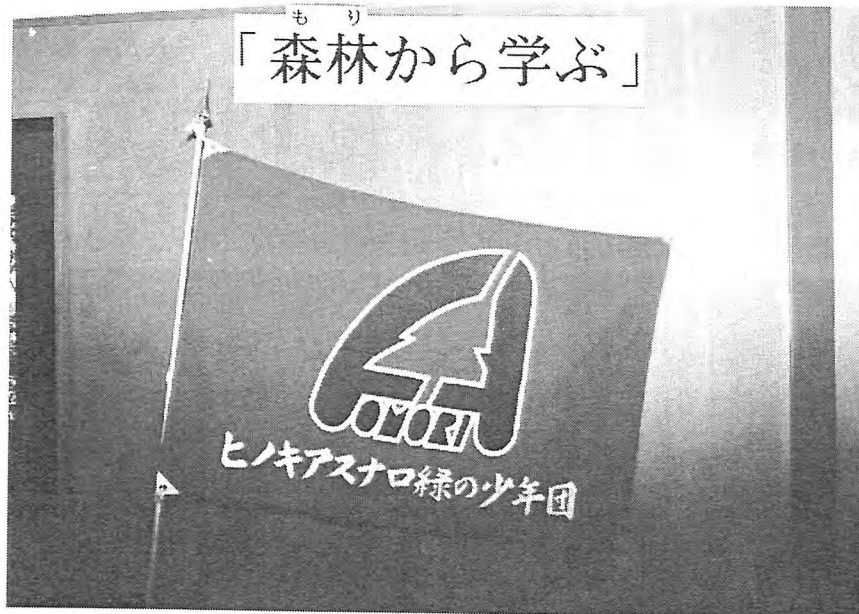
神 雄彦（沖館小6年）

和田 智美（ ” ）

私たちのヒノキアスナロ緑の少年団は、昭和58年に結団されました。

沖館小学校4年生から沖館中学校1年生で結成され、雪や寒さにも負けない粘り強く、心の優しいりっぱな少年になるようにと青森ヒバのヒノキアスナロの名前をつけたそうです。

青森のヒバには、長野県のヒノキにはないヒノキチオールという優れた香りのする、虫もよせつけない油をもっていることを知りました。ほんとうに不思議な木であり、地球にやさしいすばらしい木だと思います。このような木の名前をつけてもらい、ほんとうに良い名前だと思います。



写真は、私たちのマークでもある団旗です。私たち先輩の沖館中学校の生徒が考えた英語のアオモリと、ヒバの森を表しています。

平成9年9月27日に第21回全国育樹祭が青森市で開催され、ヒノキアスナロ緑の少年団が皇太子殿下と妃殿下の御先行役を努めました。

また、緑の少年団全国育樹祭体験発表で、ヒノキアスナロ緑の少年団が優秀賞に選ばれて代表発表をしました。

それでは、今から私たち少年団の主な活動を紹介したいと思います。

昭和59年に、青森市の八甲田山から流れてくる横内川の水が「日本一おいしい水」に選ばれたのをきっかけに、私たちは、自然の森林（もり）から学び、緑豊かな美しい故郷（ふるさと）をつくり、「日本一おいしい水」を守ろうを合い言葉に三つの目標をつくり活動を続けています。

一つ目の目標は「森林をふやそう」です。

八甲田山のふもとのかやの高原の近くにある、青森営林局のせぎょうしひょうりん（施業



写真は、皇太子殿下と妃殿下の御先行役をつとめる少年団

指標林) があります。平成6年秋に、青森営林局の先生のしどうでシードトラップという種を採取するあみ（網）をかけて、ブナの種をとりました。

ブナの種を数えて、塩水につけて実の入った沈んだ種だけをえらんで、森林博物館の裏の幅1m、長さ3mの床にまきました。1㎡の中に10cm間隔で種をまいたら約270個の穴になりました。春の調査では245本の芽がでてきたのでみんなで大喜びしました。約90%の芽が出たので成績はたいへん良いとほめられました。

その後は、草取りやひりょうをあたえること、日よけ、水まきなど順番をきめて一生懸命に作業をしました。



平成8年の春には230本、平成9年の春には225本となり、大きいのは25cm位に成長していました。平成9年5月10日に青森市水道100周年記念行事として行われた植樹祭に、この中から水源林造成地に200本植えました。

また、ヒバの種も試験的に1㎡ほどまいたところ、約30本位芽がでてきたがゼニゴケというコケが一面にはりついてだめになってしまいました。

そこで、ヒバのさし木苗のつくりかたを勉強しようということになり、平内町の狩場沢で30年も研究している盛先生からどうしてもらいました。

15年もたつという高さ3m位のヒバの木の枝の下枝から、40～50cmの長さの枝を切りとってきて一昼夜水につけておき、森林博物館の裏に苗の床をつくり5月12日に挿し木しました。

さしかたは、葉の表を南がわに向けて約15°位斜めにしてさしました。さしてから、75日間根を動かさないようにということであったが、沖館川からの強い風で根元が動いたので少年団1人1本ということで、44本さし木したのですが、次の年の春には13本が完全に根をつけていました。このうち5本を平成9年度の青森営林局の植樹祭で植えました。

ほかのヒバに負けないで、りっぱに成長してほしいと願っています。

二つ目の目標は「森林を守ろう」です。

郷土の緑を守るため山火事防止運動や、八甲田山の高山植物のパトロール、空き缶ひろいなど山の清掃やゴミの持ち帰り運動も続けています。

また、緑の募金運動であつまったお金は、学校や公園、幼稚園、保育所などにもつかわれていることを知りました。



青森市のデパートの前で、大きな声で叫んで募金運動をしました。はずかしかったですが、多くの人からはげまされて、大変うれしかったです。

三つ目の目標は、「森林から学習する」です。

私たちは八甲田山や眺望山、県民の森・梵珠山などで体験学習をしました。その時にブナの木に聴診器をあててブナの木が水を吸い上げるような「ゴォーゴォー」という音や「シュ

ーシュー」というような音を聞いたような気がしたのでたずねたら、はっきりしたことは、分からないということでした。



平成8年の夏に一泊二日の予定で、世界遺産・白神山地に森林体験学習にいきました。青森営林局の先生の案内で、ブナ林の観察や植物などの勉強をしました。

大きく太いブナの林はうす暗く、中に入るとひんやりと冷たくとっても気持ち良かったです。ブナの林の中はスポンジのように柔らかく、土を掘ってにぎってみると雨がふらなくとも水分をたくさん含んでいることが分かりました。この水分がしだいに地下にしみこんで木や草の根をとおり、土の中の生物が呼吸をするときに出す炭酸ガスやミネラルといっしょになり、地下へ地下へとながれ温度の変化の少ない土の中で冷やされて冷たくなり、おいしくなるのだということを知りました。そして、おいしい水の出る山にはブナの木ばかりでなく、たくさんの種類の木があるほうが良いということも分かりました。

また、平成9年の夏の体験学習は眺望山で木工教室といっしょにやりました。青森営林署の先生のしどろで、落ち葉や、木の枝をつかっていろんなものをつくりほんとうにたのしかったです。

最後に、私たちをしどろしてくれた営林局と営林署の先生方ほんとうにありがとうございました。ヒノキアスナロ緑の少年団は、自然からいろいろなことを学び、緑豊かな美しい郷土をつくるため、団員みんなで力を合わせてがんばりますので、これからもよろしくごしどろをお願いして発表を終わります。